

令和元年度 事務事業マネジメントシート

		事務事業No.		16-	5
事業名	学校管理経費（小学校費）	会計	款	項	目
		一般	10	2	1
施策	3	心豊かなまち	課名	学校教育課	
	3-1	生涯学びのあるまちをつくる	係名		
	3-1-1	幼児教育・学校教育の充実			
主要施策	③学校教育環境の条件整備		④特別支援教育の推進		

① 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	特別な教育的支援が必要な児童	目的（対象がどのような状態になっているか）	一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行い、生活や学習上の困難を改善又は克服できるようにする。
事業内容	①〔臨時職員賃金〕算数、数学を中心に少人数指導（チームティーチング、習熟度別指導等）を可能にする講師を配置する。そして、児童一人ひとりに対し、きめ細やかな指導を行い着実な学力の定着を図る。 ②〔学習支援員活用事業〕特別支援学級に在籍する児童と通常学級に在籍し個別支援が必要な児童に対し、学習支援員を配置する。そして、担任や特別支援教育コーディネーター、保護者等と連携しながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。			

② 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	指標名		平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	目標方向	令和2年度（目標）	
	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
			平成30年度（決算）		令和元年度（決算）	令和2年度（予算）			
全体事業費（千円）A+B					54,372	55,052	23,218		
財源内訳	直接事業費A				54,174	54,854	23,020		
	うち一般財源				54,174	54,854	23,020		
人件費（千円）B					198	198	198		
内訳	一般職員（人・千円）		0.03		198	0.03	198	0.03	198
	臨時職員（人・千円）				0		0		0

③ 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善<※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性は高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		町関与の必要性	A 町が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適正である
					コストの削減	B 削減の余地がややある
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①R1年度の改善計画	支援学級から通級指導教室（通常級）へ転籍を見据えた判定を慎重に行っていく。	③取組の課題	個別の支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、予算と人材の確保が困難になってきた。
②R1年度に実施した取り組み	算数を中心に少人数指導を実施し学力の定着を図った。また、個別の支援が必要な児童生徒に対し、学習支援員がきめ細やかな支援を行った。	④今後の改善計画	通級指導教室を活用し、個別の支援を充実させる。